平成28年11月25日 発 行

◆発行責任者/ ◆発行/北見赤十字病院地域医療連携室 北見市北6条東2丁目1番 吉田 茂夫 E-mail: renkei @kitami.jrc.or.jp

http://www.kitami.jrc.or.jp/

からは、

最後に、救護班リーダーの斉藤部長

多くの職員が何かした

いと強く派遣を希望していたが叶わず

留守を預かったスタッフに対し

感謝の言葉が述べられた。

派遣者・聴講者が共有した良い時

1時間の予定が2時間にも及

※地震の概要 平成28年4月14日(木)21時26分頃態 日を本震と訂正される。 最大震度了の地震が発生し、16日1 本県熊本地方付近を震源としたM6.4 時25分M73の地震で14日を余震

死60名・避難者188人)

(10/14現在 死者50名・震災関連

平成28年熊本地震に当院から熊本赤十 があった。 開催。院内・外から120名の参加者 て派遣の報告会が平成28年6月28日 ATロジステックスチームの一員とし 字病院業務支援及び、 等に位置付けられている。 的な業務として、社法及び災害救助法 特に活動期間中、 して益城町に救護班の派遣、 (火)多目的ホール「ミント」を会場に 統括DMATである荒川副院長の進 平成28年4月14日 (木) に発生した 国内・外問わず救護派遣が第一義 医療救護支援と

来てくれたことの感謝の言葉をいただ 配していただいた事、休日の過ごし方 送っている環境の中で派遣者側に非常 が被災者であり、中には車内生活を あった。熊本赤十字病院スタッフ自ら れたことなどが印象に残りました。 のアドバイスを受けた事、また患者さ 触れたことで、声を詰まらせる場面も 部長、最後に救護班の報告を行った。 支援コーディネーターの佐々木看護副 いた事、 んからは遠く北海道から熊本に支援に して派遣された鈴江看護師長・渡部看 行により、発災直後に病院支援業務と に気遣いをし、声掛け、環境の面で心 北海道の話題で溶け込んでく 続いて二階堂看護係長、 熊本県民の優しさに

赤十字の使命は、災害が発生した場 病院業務支援~熊本赤十字病院 ※派遣目的・派遣者一覧 ☆第1次派遣

鈴江看護師長・渡部看護師長 派遣期間 平成28年4月20日~4月26日

☆第6次派遣 二階堂看護係長 派遣期間 平成28年5月11日~5月25日

更 に D M

☆病院支援コーディネーター 佐々木看護副部長 派遣期間

あったと思われます。

平成28年5月16日~5月29日

☆第1ブロック支部 第8次派遣 斉藤第一循環器内科部長・坂本看 護師長、朝岡看護係長、 酒井薬剤師、 澁谷副室長 青野看護

師

派遣期間

平成28年5月7日~5月12日

☆DMATロジステックスチーム

日本DMAT

平成28年4月23日~4月29日

派遣期間

あれば「こころのケア」は始まるとい 出して涙される方もおり、災害という 聞かれました。また当時の辛さを思い 強い健康被害のある方は少なかったで うことを改めて感じました。 ものが様々な形で心に傷を負わせるの お住まいのご家庭を主に訪問させて、 だと感じました。今回は健康調査とし 水運びによる腰痛悪化など様々な話が すが、それでも断水によるストレス、 ただきました。住宅被害の大きい方、 この活動でしたが、お話を伺う機会が 私達は優先順位の高い、 高齢の方が

興、本当の意味での回復を心より願 今回被災された方々の一日も早い復

者している人の支援」の意味合いも お手伝いをさせていただきました。中 の健康調査を行っており、私達はその 私はこころのケア班として中村由美看 心で頑張っている保健師さん達「支援 を残しました。9月18日から22日まで た。新得町では全戸対象とした被災後 護師と共に新得町にて活動を行いまし 北海道に台風10号が襲いかかり、 南富良野に大きな傷跡 年の11月から約1ヶ月間ツリーを飾りました。ツ

新得町、

病院ボランティア優 季節の飾り付け

新病院がオープンして以降、陽当たりの良い本 館1階アトリウムにて患者さんがゆっくりと過ご されている姿をよく見かけます。そんな様子を見 ているとアトリウムが患者さんの憩いの場となっ ていることを実感します。

本日はそんなアトリウムにてボランティアが 行っている季節の飾り付けについて紹介させて頂 きます。

まず、 最初のきっかけはボランティアより 「白 宅にある杉の木をクリスマスツリーとして寄付し たい。」という提案からでした

院内でも検討して生木は設置や管理が大変なこ 一度は生木を飾ることは難しいとの判 断となりました。しかし、せっかく提案して頂い た話だったのでボランティアでクリスマスツリー を購入し、飾り付けもボランティアの手芸作品も 使って設置することとしました

天井の高いアトリウムなので見栄えのするサイ ズのツリーを購入し(台を含めると4m以上)、昨 リーは大変好評で写真に収める様子も多く見受け られました。

をきっかけに3月はひな人形、 は5月人形をアトリウムに飾っています。患者さ んに病院にいながらも少しでも季節を感じて頂き 心を休めてもらえればと思いボランティアとして 季節の飾り付けを行っています。

今年もまた11月頃からクリスマスツリ 予定です。一度気にかけて見て 頂ければと思います。

(ボランティア事務局)







11月6日(日曜日)に市民グループ「北見赤十字病院の明日 を考え支援する会」や医療器具メーカー「ジョンソン・エンド・ジョンソン」が協力し、ブラックジャックセミナーが開催されました。本イベントは、子供たちに医療現場を身近に感じても らう狙いで開催され、前日からの悪天候にもかかわらず27人 の中学生が参加しました

参加者は、①内視鏡外科手術体験②超音波メスによる模擬 手術体験③縫合糸による模擬手術体験④自動縫合器・吻合器 体験⑤整形外科体験を同社スタッフや北見日赤の医師らの指 下、真剣な眼差しで体験していました

今回のイベントをきっかけに、医師を志す生徒が







の寄贈がありました。 80インチ4Kテレビ・ だきたいとのことで、 患者さま方へ観ていた 横浜市藤原雅彦様より 平成28年9月2日(金) ブルーレイ内臓ビデオ

松浦理事長先生質問コーナー

診療科: 歯科

《1、自己紹介・アピール》

平成4年に開業し今年で24年経ちます。「生活の医療」としての歯科の役割を果たすべく、受診して下さる患者さんと出来るだけ長く関わっていきたいという思いで、今日まで取り組んできました。お陰様で今では10年20年と口腔の健康維持のために通ってきていただける患者さんが、多くなってきているように感じます。

□腔は生活を映し出す鏡です。いつまでも健康で、□から食べる喜びを感じていただけるように、一人でも多くの方の支えになればと思っております。

《2、医療連携について》

高齢化が進む昨今、今まで以上に病診連携の必要性を感じております。お陰様で口腔外科の阿部先生、辻先生には日頃から抜歯等の歯科小手術を始め、有病者の全身管理や障がい者の治療など迅速で確実な対応をしていただいております。当院の患者さんにも大変喜ばれており感謝しています。

《3、最近の出来事》

医療と介護の一体化を目指した研究会に2013年看護師の川嶋みどり先生に来北して講演をいただきました。以来ことあるごとにいろいろと教えをいただくなど交流をさせていただいております。長年先生が赤十字で実践されてきた思いを是非とも多職種の仲間と共有し、地域連携のお役に立ちたいと思っています。



医療法人社団 松浦歯科医院



〒090-0818 北見市本町2丁目5番2号 TEL(0157) 61-8100

理事長:松浦信一

出身大学:東京歯科大学歯学部

(昭和63年卒)

出身地:北見市

所属学会:日本スポーツ歯科医学会

全国訪問歯科研究会

専門分野:総義歯綴〈診療受付時間のご案内〉

	月	火	水	木	金	土	日·祝
午前9:00~12:30	0	0	0	0	0	9:00~ 1:00	×
午後2:00~ 7:00	2:00~ 6:00	0	2:00~ 6:00	2:00~ 3:00	0	×	×

休診:日曜·祝日

登 線 医 船 介

■米村院長先生質問コーナー

診療科: 歯科

《1、自己紹介・アピール》

昭和59年開業

患者さんの立場に立って、口腔に対する悩みや苦痛を軽減し、一生自分の歯で食べる 事のお手伝いをいたします。デジタルレントゲン、レーザ照射器、CAD、CAM冠を作 成するセレックなどの最新機器を導入しております。

《2、医療連携について》

高齢化に伴い、有病者の治療が増えております。他科との医療連携の必要性を痛感しております。

《3、最近の出来事》

下顎埋伏智歯の抜歯を連携室を通して □腔外科に依頼して、スムーズに対応し ていただきました。



米村歯科医院



T093-0042

網走市潮見8丁目5-15 TEL(0152) 43-0068

院長:米村喜和

出身大学:神奈川歯科大学

(昭和57年卒)

出身地:網走市

所属学会:障がい者歯科医療協力医

〈診療受付時間のご案内〉

	月	火	水	木	金	土	日·祝
午前9:30~12:30	0	0	0	0	0	*	×
午後2:00~6:30	0	0	0	0	0	×	×

休診:日曜·祝日 ※土曜AMのみ 予約制

名、PCTとして主科と併診.

往診を行っている患者様が約

を行っている患者様が約30現在当科に通院もしくは

ている患者様が約30名となって

制づくりが、

います。これらの患者様のうち数

が復帰予定です)。診療実績とし

(2016年11月より島田医師

引き受けるよりも、 現時点では、

者が一人で診療を行っています

育休に入ったため、

現在は記載

師が帰阪し、島田医師が産休・

界があるため、

前述のとおりマンパワー

からの紹介のみに対応

時は三人体制となった当科で

2016年1月、

後明

した島田瑠奈医師を加え、

【今後の展望】

智子看護師の二名となっていま

当科外来・病棟だけでオホ

看護師は部川玲子師長と仙石

えています。

外来にご

し相談いただけますと幸

患者様に関しては、

個別に当

名が毎月病棟に入院となり、

〜4名程度が在宅で看取りを迎

門看護師である部川 北海道で最初のがん看護 北見赤十字病院 師長は、 腫瘍精神科 当専 西

持向上 2007年にがん対策推進基本 減少」とともに全体目標として の軽減並びに療養生活の質の維 計画が策定されて以降、「すべて は2006年にがん対策基本法 組みのことをいいます。 ことにより、生活・生命の がん患者及びその家族の苦痛 (QOL)の改善を目指す取り 2関連する問題を早期に同定・ ;価して苦痛を予防・緩和する 和ケアとは生命を脅かす病 が 「がんによる死亡の 我が国で

明 患者様への付加的な情報の提供 療に陪席 宅療養患者様の全人的ケア テーションとの連携をとおした在 疼痛日誌の付け方のアドバイス 行っています 科を受診する患者様に初回面談 (緩和ケア実施計画書の説明や (緩和ケア内科診療の概略の説 仙石看護師は記載者の外来診 を行ったり、 診療のサポ 訪問看護ス

b

「診療概要

掲げられています

)赴任した後明郁男医師によっ

2012年5月産声を上げま

2014年4月に記載者が

当院緩和ケア内科は大阪府・

科への通院時に合わせて当科も 受診できるようフレキシブルに対 負担をなるべく減らせるよう、主 抱えてもなお在宅療養を続 応しています。 いる点でしょう。従って、 いと願う患者様を第一に考えて 当科が主科の患者様は、 当科の特徴としては、 通院の 苦痛を 2

 \mathcal{O} ちしており 様からの多く 受講をお待

月

西本

ム(PCT)、がん患者様の心のの患者様をケアする緩和ケアチー

ケアを専門とする腫瘍精

神科、

ん終末

期在宅医療にも重点を

きる体制を目指しています

【当科の紹介】

2015年4月、

愛知

とつの診療科で手厚くサポー

午後に行

科は診察に時間を要するため

午前

午後

水午後に一枠30分で受診いただ

午後に行っています。腫瘍精神田が診察となります。往診は火後:西本、火午前・金午前:島後:西本、火年前・金午前:島

治療中から看取りまでひ

後

福井県より赴任してからは病

外来のみならず、がん治療

ります。 を予定してお \Box 和ケア研修会 は 17年度の緩 関連各施設 7月15·16

往診

西本・島田

なお、20 L の 火 水 木 島田 カンファレンス

腫瘍精神

の地力の強化域の緩和ケア 改善に努めて 族のQO. と患者様ご家 育も含めた地 えております。 いきたいと考 金 島田

西本

担うのは限界 研究・教

臨床だけでながあります。 ケアをすべてツク圏の緩和

> 武 NST: 西本

本

緩和ケアの提供を受けられる体 様に基本的な緩和ケアを身につ 上で専門的な緩和ケアを要する けられる機会を提供させていただ トが大きいと考えています。その 患者様が通い慣れた施設で 地域にとってメリッ 院外から患者様を 3、原則的には院内3のマンパワー的に限 関連各施設 しています

2016年7月17日(日)18日(月·祝)、 当院北館大会議室で第8回北見赤十 去る、 字病院緩和ケア研修会が開催された。 今年度は後明郁男医師が退職したこともあ り、記載者がはじめて企画責任者となった。ファシリテーターもこれまでお越しいただいていた先生方が、学会出張や勇退されたこともあり、JCHO北海道病 院の原田敏之先生と市立札幌病院の武村史先生をあらたにお招きすることができ PEACEモジュールが2015年4月に全面改定され1年間の移行期間を過ぎ 当院としてははじめての新モジュールでの研修会であり、新しいものづ くめの研修会となった。

受講者は総勢22名。うち初期研修医が4名、院外医師が7名であった。医療ス タッフは院内看護師が3名、院外看護師・薬剤師が5名であった。その中には当 院の吉田茂夫院長のお顔もみられた(がん診療連携拠点病院の病院長は診療科に関わらず受講することが望ましいとされている)。

記載者の「緩和ケア概論」から研修がはじまり、「つらさの包括的アセスメント とマネジメント」という新たに加わったモジュールへと続いた。「オピオイドを開 始するとき」のロールプレイの頃になると、受講者も打ち解け凝集性の高い研修 翌日の「コミュニケーション」のロールプレイでは、難治がんの告いいシチュエーションに挑戦し、SHAREプロトコルと呼ばれる 知という難しいシチュエーションに挑戦し、SHAREプロトコルと呼ばれる 「安心感と情緒的サポート」に配慮した悪い知らせの伝え方を体験してもらった ポストテストの平均正解率が88%を超え緩和ケアの更なる浸透を実感した密度の 濃い2日間だった。 腫瘍精神科 西本 武史



がん対策推進室

開催5回目となった今年のELNEC-J(看護師向け 11月5日(土)6日(日)に北館大 緩和ケア研修会)が、11月5日(土)6日(日)に北館大会議室にて30名の参加者と5名の講師、5名のファシリテーターの計40名で開催となりました。29名の方が受講修了されました。受講者アンケートには、『勉強になりました。』『また受講したいです。』『明日から実践して行きたいです。』などのご意見をいただいております。毎年大人気の講演会で、今年より1施設から2名までの参加とさせていただいておりますが、来年も開催を定ですので是非ご参加いただければと思います。

ばと思います

来年の開催についての詳細が決まり次第 ・当院のホームページ掲載などでお知らせい た します

オホーツク圏唯一のがん診療連携拠点病院として、今年度よりオホーツク緩和 ケア講演会を開催することになりました。記念すべき第1回は、筑波メディカル センター代表理事で日本ホスピス緩和ケア協会理事長の志真泰夫(しまやすお) 先生をお招きして、9月30日に当院で開催いたしました。「われわれはどこに向 かっているのか~緩和ケアの『これまで』と『これから』」と題した講演はイギリス で生まれた近代ホスピスから、現在の世界各地とりわけ、アジアにおける緩和ケ アの取り組み、さらには高齢多死時代に向いつつある我が国に相応しい緩和ケア のあり方などをお話いただきました。

また、志真先生方が中心となり取り組んでいる大規模遺族調査(通称、J-HO PE研究)の結果も解説いただき、「お迎え」現象の研究では、遺族の20%がお迎 え現象を経験していることが説明されると会場からは驚きと戸惑いの声が上がり ました。著名な先生から、オホーツクへと続く緩和ケアの大きな流れを感じる講 演でした。

聴講者は71名と少なめでありましたが、院外からも21名のご参加をいただきま 講演後のアンケートでも「日頃のケアの根拠となる考えが理解できた」、 「緩和ケアの歴史から現在、これからが俯瞰できた」と概ね好評をいただいてお ります。

都市部とは違い、なかなか緩和ケアを学ぶ機会のないオホーツク圏において、 このような第一人者の生の声を聞けるのは非常に重要な経験になりました。今後 も継続的にこのような機会を企画し、オホーツク圏の緩和ケアの情報発信を行っ て参りたいたいと考えております。余談ですが、講演会終了後私たちスタッフに 手品を披露して下さり、ご自身が診ている患者様にも披露していることなど色々 お話をして下さる、とても気さくで素敵な先生でした。

なお、第2回オホーツク緩和ケア講演会は平成29年9月 1日に京都大学大学院教授田村恵子(たむらけいこ)先生を お招きして開催する予定であります。開催1~2ヶ月前に 当院連携室よりFAXにて開催案内をさせていただき ますので、多くの方にご参加いただければ幸いです。 がん対策推進室 事務局





ELNEC-J 開催報告

『看護外来』

という言葉は聞 しれません。

から看護外来を始めています。

北見赤十字病院では6月1日

本看護

協会は

「疾病を持ちなが

)慣れないかも

認定看護師



緩和ケア病棟 緩和ケア認定看護師 中 村 由 美

緩和ケアは、命にかかわる病気 に直面している患者とその家族を 対象とし、体と心の痛みをやわら げ、生活やその人らしさを大切に

するケアです。終末期がん患者が受けるもの、最後の手段 というイメージを持つ方が多くいますが、がん対策推進基 本計画において「がんと診断されたときからの緩和ケアの 推進」が重点的に取り組む課題として位置づけられていま す。近年は非がん患者に対する緩和ケアの重要性が指摘さ れ、いつでも、どこでも、だれでもが診断を受けたときか ら受けられるケアへと広がっています。

当院緩和ケア病棟では、希望された療養の場でその方ら しく過ごすことができるよう、多職種が協働しています。 在宅療養を希望される方も多く、残された時間がわずかな 方もいるため、スピーディーな退院調整が必要となります。 訪問診療、在宅看取りも増えており、地域の方々との連携 の重要性を感じております。

緩和ケア認定看護師として、患者さんとその家族の身心 のつらさや悩みに寄り添い、少しでも希望を叶えられ「緩 和ケアを受けて良かった」と感じていただけるよう、緩和 ケアの質の向上に努めています。今後は、院内外の人々に 緩和ケアの知識、技術を広め、誰もが早期から緩和ケアを 受けられるよう、実践・指導することが自身の役割である と考えています。看護外来で患者さんと家族の相談もお受 けしておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

患者様のセ 限に引き出 名が在籍しています。 看護師が療養生活を支えるため に直接的なケアだけではなく、 門看護師3名、 ルフケア能力を最大 主体的に自己決 認定看護師16 それらの

が円滑に送れるように、 してい 定の時間と場を確保. 外来をいう。『看護外来』 患者やその家族に応じた特定の 患者やその家族等に対 援等を医師や他職種と連携して 伴う症状の改善や自己管理の支 看護職が主導 門領 地域で療 当院には2016年9月現在 療養上の世話を提供する場の 域においての診療の補助 養 して行う」 ・社会生活を営む Ų 生活に では 個々の と定義 生活



延べ月 はじめ、 4ヶ月経ちましたが、 などを行っています。 いただいています 行われていた 定できるよう、 「フットケア外来」 100人を超える患者様 ご家族の方に利用. 「スト 的確な情報提供 を含め、 -マ外来」 それまで 開設から

> なっています。 様 師 方法についてはポスターをご参 と感じた患者様、 外来日時

対象は当院で治療を受け

やご家族が希望された方と ;・スタッフが看護外来を必要 もしくは患者 3・予約

『小規模病院等施設間交流研修』について

平成28年10月27日(木)28日(金)に「小規模病院等施設間交流研修」を開催し ました。この研修は、北海道看護協会の看護の質向上に関する事業として北網支部 が主催し、小規模病院等の看護職による施設間の交流・実地研修を行い看護技術の 向上・業務改善・当地域内の看護連携の促進を図ることを目的に開催されています。 今年はこの事業の協力施設として病院、訪問看護ステーション、特別養護老人ホー ムなどの12施設に35名が研修生として参加しています。当院には、オホーツク勤医 協北見病院、北見北斗病院、愛しの内科クリニックから5名の研修生が来てくださ いました。

研修は研修生の目的別に病棟を決定し、各病棟に分かれ1日半の見学実習を行い ました。また、2日目には「褥瘡の発生要因とその予防」「医療安全対策について」 「院内感染防止について」「地域連携の現状を知る」について当院の認定看護師や各 担当者の講義を聞いていただきました。研修生の中には、新病院になって初めて来 院された方もおり研修初日の朝は緊張された表情でしたが、実習病棟では担当看護 師とともに実際の看護場面の見学やカンファレンスに参加し、担当師長や講師に対 して疑問点や日ごろの業務で困っていることなど質問されておりました。最後の評 価感想では「医療安全について5 S活動(整理、整頓、清掃、清潔、躾)、ダブル チェックの実際、認知症ケアやNST(Nutrition Support Team=栄養サ ·トチーム) 活動について学ぶことができた」「研修病棟では褥瘡のある患者がい なかったため処置などの見学はできなかったが、褥瘡をつくらないための看護ケア について学ぶことができた」「固定チーム内での情報の共有、院内での情報の共有に ついて学んだ」等など、自己の研修目標は達成されたと報告がありました。研修終

了後、希望者の方には緩和ケア病棟を見 学していただき研修を終えました。

2日間という短い研修でしたが、研修 生を通して当院との顔の見える連携につ ながることを期待し、また次年度以降も -人でも多くの方に当院で研修していた だけますよう当院の職員一同患者さまに 対するケアの向上をめざし、これからも より一層研鑽して参ります。

当院が、平成28・29年度の2年間受託している自殺未遂 者支援モデル事業の一環として、標記講演会を平成28年9 月6日(火)、当院北館3階大会議室にて開催しました。当 日は93名(院内48名、院外45名)の参加者にお集まり頂き、 関心の高さが伺えました。

内容は、吉田病院長が座長となり、札幌医科大学医学部 神経精神医学講座 主任教授 河西千秋先生による『自殺 未遂者のマネジメントに関する最新知見』という講義を行 いました。

また、同附属病院神経精神科 精神保健福祉士 先生によるケース・マネージメントの実際から『事例提 示』をして頂きました。さらに、当院における自殺未遂者 ケアの取り組み計画の概要を、神経精神科嶋田部長と、神 経精神科病棟武田看護係長から説明がありました。

参加者アンケートからは「最新知見と現状の取り組みが 理解できた」、「広く周知すべきと思う」等の意見があり、 次回の参考にしていきたいと思います。 (医療福祉課)



図1

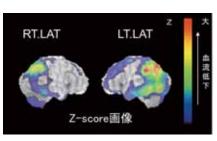


図2

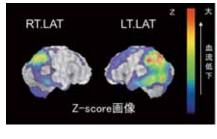


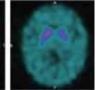
図3



三日月状 Normal



ドット状(点状) DĽB



左右非対称

であるZ-SAMと呼ばれるソフトウエア 値から標準偏差(SD)でどの程度離れて 画像はZ‐score画像と呼ばれ、 示する方法です。この低下部位を表示した 低下部位を重ね合せ3D表示で分り易く表 るかを示しており、 容易になります。また、3D-SSP解析 しております。 の読影を補助する目的のソフトウエア より分かりやすく結果表示を 血流低下部位の評価が 特徴的低下部位で 平均

りますが、 いる3D-SSPという統計画像解析があ かりやすく表示するために広く利用されて とが重要となります。血流低下の部分を は正確に血流低下部位と程度を把握するこ な環境で検査をおこないます。 図1のような脳表イメージ上に この検査で 影をおこない、

今後とも当院の画像検査を、 を表示し、また、 最新のソフトウエアにより、分り易く結果認知症関連のRー検査では、このような 程度を数値的にも評価します 集積の比により定量値を算出. 形態となり、PDでは左右非対称となるこ 性ある読影し トウエアにより、 とが特徴です。 するものが、 価と定量値による評価があります。 ダットスキャンの診断では、 崩 正常例では三日月状の形態に集積 DLBやPDではドット状の 定量的評価では、 核医学専門医による信頼 線条体の集積と脳実質の トを提供しております。 認知症診断に して、 視覚的な評 専用ソフ 図 3 の 集積

ればと思います

低下の りやすく表示しています。 どうかの判定を、図2のように非常にわか (DLB)に特徴的な血流低下所見があるか症(AD)、あるいはレビー小体型認知症 の判定をして、アルツハイマー型認知後頭葉内側の関心領域に対して血流

☆ダットスキャン

布密度を解析することで、 キャンの薬が集積する、線条体のDAT分 尾状核と被殻からなりますが、ダットスドパミン神経細胞の投射先である線条体は、密度が低下していることが知られています。 終末のドパミントランスポーター(DAT) なうことが可能となります 候群及びレビー小体型認知症の診断をおこ 細胞が変性する運動失調疾患で、 知症(D. この検査は注射をしてから3時間後に撮 ーキンソン病(PD)やレビー小体型認 LB)t 黒質線条体ド パーキンソン症 -パミン その神経 神

撮影時間は約30分です。

アイマスクをして安静の状態で注射をして

撮影します。血流に影響しないように静か

とを利用しています。

分で、

知症の種類により血流低下部位が異なる! 認知症診断における脳血流シンチは、認

でより有用な多くの情報が得られます。

☆脳血流シンチ

か得られるので、これらを組み合わせる事

は形態情報だけでは得られない機能情報

PECT(R-検査)があります。

CTなどの検査と、

機能情報が得られるS

SPEC

画像診断には形態情報が得られるMR-や 認知症の診断に広く利用されていますが メージ)について紹介します。

画像診断が

トスキャン(ドーパミントランスポータイ

のRー検査である、

脳血流シンチと、

ダッ

ありがとうございます。当院の認知症関係

日頃より当院の放射線検査をご利用頂き

課内での取り組みとしては、

診療記録への代行入力、 る事務作業を主に行っており 録等の医療の質の向上に資す 診断書などの文書作成補助 に関するデータ整理や症例登 診療

その先にある患者さまを「支 務作業補助の目的は「医師の 負担を軽減する」ことですが

制となっています。 外来15診療科のMCと文書作 事務作業補助者(以下メディ 成補助のMCの合計36名の体 カルクラーク 現在は業務拡大に伴い MC)が導入

当院では平成23年より医師

や一人一人の業務の状況を把 スタッフへの情報共有の強化 策での基本方向では 研修を開催しております。 握し協力し合える事を目的と 事が示されています。 から「治し、 るミーティングの実施やスキ して定期的に各グループによ アップを図るため毎月M 超高齢社会における医療政 支える」という ー 治 す L 医師事

MCの主な業務としては

6つのグループ体制を作り

と考えております。 C業務のさらなる進化が必要 える」ことを常に意識し、

和

新しい医師を紹介し ま~す~

(平成28年10月~)







眼科医師 哲 田 雄 土 田 美 齋 結 藤

評価に向けた講演会

平成28年8月23日、旭川赤十字病院名誉院 長の後藤先生をお招きして病院機能評価受審 に向けた講演会を実施しました。 当院は過去 に病院機能評価を受審しておりましたが、内 科医退職問題、病院移転等様々な出来事があ りまして、一旦留保した後、今年度改めて病 院機能評価を受審するという事になりました 今回受審する病院機能評価のバージョンは3 r d Gと呼ばれ、今までのマニュアル、書類 を整備する事だけではなく、実際の診療の流れ、ケアプロセスの確認といったサーベイ ヤーとのヒアリングが重要になってくるとい 実際にサーベイヤーをされている後 藤先生に最新の状況や、受審に向けて病院と して取り組むべき事項等、ご講演頂きました 講演会には150名を超える参加者が集まり、 それぞれ自己領域の不明な点や疑問点につい て確認することができ、病院機能評価認定に 大きく前進したと思います

昨今の病院運営に求められるものとしては 医療の質があげられます。それは診療のレベ ルが高い、機器が充実しているというだけで

●開催予定日表

担当診療科

はなく、 医療安全や感染管理、個人情報保護 ついても十分な対応がなされている事が 重要で、病院機能評価はこれらの項目を再確 認させてくれる良い機会にもなっていると実 感しております。

来年の2月に機能評価受審の訪問審査を予 定しております。病院機能評価認定を受け 更なる地域の期待と信頼に応える病院を目指

していきたいと思います。 病院機能評価委員会 事務局 河 野



H28年度 ●内科系3診療科オープンカンファレンス症例検討内容

	題名		題名			
第 1	「結腸直腸がんの化学療法」〜全国規模の臨床試験 (phaseⅢ)に登録した当科症例の現状を中心に〜	第 4 回	「骨髄癆性貧血」			
			発表者 内科・総合診療科 垂水政人			
	発表者が消化器内科・腫瘍内科を岩永一郎		「新しい胆道内視鏡の使用経験 肝内胆管結石の			
	「いまさらですが、バセドウ病に対する放射線ヨウ素内用療法」		治療」			
	発表者 内科・総合診療科 大谷恵隆		発表者 消化器内科・腫瘍内科 江平宣起			
第2回	「心嚢液と胸水のコントロールが困難であった心不全の一例」	第5回	「抗GBM抗体型腎炎の一例」			
	発表者 循環器内科 関 雄太		発表者 内科・総合診療科 青柳美穂			
	「急性発症の汎血球減少の一例」		「感染性大動脈瘤の一例」			
	発表者 内科・総合診療科 大谷恵隆		発表者 循環器内科 多田篤司			
A-A-	「消化器症状で発症した甲状腺クリーゼの一例」	h-h-	「当院における急性肝炎診療の現状~E型肝炎を中心に~」			
第3回	発表者 内科・総合診療科 蜷川慶太	第6	発表者 消化器内科 得地祐匡			
	「足がつる」		「再発性多発軟骨炎の気道病変の一例」			
	発表者 循環器内科 本居 昴		発表者 内科・総合診療科 桑原 咲			

午後18時30分~)

扣当診療科

筆名回

平成29年2月16日(木)

消化器内科

内科・総合診療科

(本館3階特別会議室

内科・総合診療科

平成28年11月17日(木)

循環器内科

タト 内 D

診 科 療 \blacksquare

- ★内科・総合診療科 (完全予約制)
- ●脳神経外科
- ★消化器内科
- ●皮膚科
- (平成26年12月1日~完全予約制)
- ●神経精神科
- ★泌尿器科
 - (完全予約制)
- ●循環器内科
- ●産婦人科
- ●小児科
- ●眼科
- ●外科
- ●頭頸部・耳鼻咽喉科
- ★整形外科
- ★放射線科
- ●形成外科
- ●麻酔科
- ★ペインクリニック内科 ★歯科口腔外科

★:紹介状が必要です

休

診

- ●十曜日
- ●日曜日
 - ●祝日
- ●12月29日~1月3日
- ●5月1日(日本赤十字社創立記念日)

事前予約について

紹介状を持参される患者様につきましては、患者様の 受診希望日時を事前にFAXにて予約診療のお申し込み いただきますと、診察当日、待ち時間が短縮されます。 ぜひご利用願います。(但し、急患の場合は各科へ直接連絡願います。)

診察カード

診察券は全科共通で使用いたします。 ご来院時に必ずお持ち下さい。

険 証

健康保険証はご来院時に確認させていただいておりま す。特に、更新・変更の際は必ずご提出下さい。

地域医瘘专摄病院



北 見 赤

『理

愈

人道・博燮に基づき、患者さまを尊重した医療を提供し、地域の期待と 偶類に応えます。

『基本方針』

- 真に患者本位の医療を提供する、質の高い病院を目指します。
 二次~三次の救急医療と高度医療の充実した病院を目指します。
 すべての職員が成長でき、働く満足度の高い病院を目指します。
- 4. 健全経営を行い、医療活動を通じて地域社会に還元します。

『患者さまの権利』

- 1. 人間としての尊厳が守られ、公平で良質な医療を受ける権利があります。
- 理解・納得できる十分な説明と情報提供を受ける権利があります。
 ご自分の意思で診療を選択し決定する権利があります。
- 4. セカンドオピニオン(他の病院・医師の意見を聞く)を受ける権利があり
- 5. プライバシーを保護される権利があります。

『器書さまの音楽』

- ご本人であることを確認するために、ご自身で名前をお伝え下さい。
 アレルギー歴、病歴等について出来るだけ正確にお伝え下さい。
 医療スタッフの説明を良くお聞きになり、ご理解のうえ治療や検査などの 医療行為をお受け下さい。
- 4. 病院内では秩序を保ち、他の患者さまのご迷惑にならない様に努めて下さい。 5. 医療費は速やかにお支払い下さい。
- 当院は臨床研修病院として、卒前・卒後研修教育を担っています、医療専門 職の育成にご理解・ご協力下さい。

外来受付のご案内

~受付時間~

午前 8:00~11:00

。 デオロシとは巫母に デヤジェナい

└午後 1:00~3:00 ∫

○:受付しております ☆:紹介状が必要です

- : 手術・検査等

元代20年 / 日20日 田 左

	*ご不明な点は受付にご相談下さい。 平成								28年4月28日現在	
曜日	F	∃	ر	لا ا	7.	k	木		金	
科名	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
内 科・ 総合診療科	☆	_	☆	_	☆	_	☆	_	☆	_
消化器内科 ・腫瘍内科	☆	_	☆	_	☆	_	☆	_	☆	_
循環器内科	0	_	0	_	0	_	0	_	0	_
神経精神科	O <u>**</u>	_	O <u>**</u>	_	○ *	_	O <u>**</u>	_	O <u>**</u>	_
小 児 科	0	専門外来	0	専門外来	0	専門外来	0	・1ヶ月健診 ・予防接種	0	専門外来
外 科	0	_	0	_	0	_	0	_	0	_
整形外科	☆	_	☆	_	☆	_	☆	_	☆	_
形成外科	_	0	_	_	_	0	0	_	_	0
脳神経外科	_	_	0	_	0	_	0	_	0	_
皮膚科	0	0	0	_	0	0	0	0	0	_
泌尿器科	☆	_	☆	_	☆	_	☆	_	☆	_
産 科	0	_	0	_	0	_	0	_	0	_
婦人科	0	_	0	0	0	_	0	0	0	_
眼 科	0	0	0	_	_	_	0	_	0	0
頭 頸 部・耳鼻咽喉科	0	学童外来	0	_	0	_	_	_	0	学童外来
放射線科	☆	_	☆	_	☆	_	☆	_	_	_
麻 酔 科	0	_	0	_	0	_	0	_	0	_
ペインクリニック内科	☆	_	_	_	_	_	_	_	_	☆
緩和ケア内科	☆	_	_	_	_	_	_	☆	☆	_
腫瘍精神科	_	_	_	_	_	☆	_		_	_
歯科口腔外科	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆
~診療時間は8:30開始となっております。										

診療科により異なりますので、ご了承願います~

専門外来、学童外来、1ヶ月健診、予防接種は、事前に予約が必要です。

土曜日・日曜日・祝日・年末年始(12/29~1/3)・5月1日(日本赤十字社創立記念日)は休診いたします。 他院に同じ症状で現在通院中の方は、「紹介状」が必要となります。 注1) ※印のある場合 ~ 注2)緩和ケア内科・腫瘍精神科の受診は、当院受診中の方のみとさせていただきます。

*緊急時は内科・総合診療科、消化器内科、整形外科、放射線科、泌尿器科、ペインクリニック内科を 含め、全ての科で対応させていただきます。

~病院連携システム更新のお知らせ~

今年1月より連携システムの使用を一時停止させて頂き、大変ご迷惑をお掛け致しました こと、深くお詫び申し上げます。

この度 更に個人情報の安全に努めた、システムのご利用についてご案内申し上げます。 システムを更新いたしましたので、改めて連携シ

当院では、病院連携システムにて、紹介・逆紹介の患者様に係る当院の画像・検査データを連携医療機関様から参照していただくよう、対応しています。
現在、参照可能な内容は、CT・MRT・RT・放射線視影とユー(読影レポート)心力テ

の血管造影画像、内視鏡画像、検査部エコー画像、一般撮影、検査データ、投薬内容、注射 内容です。

今後も、 より一層スムーズな連携を目指し努力して参りますので、何卒ご理解とご協力を 賜りますようお願い申し上げます。 (地域医療連携室)

- ◆やまかわウィメンズクリニック ◆オホーツク海病院
- ◆白川整形外科内科
- **◆美幌町立国民健康保険病院**
- ◆本間内科医院
- ◆藤江内科クリニック
- ◆みやけ医院
- ◆さこう・リハビリクリニック
- ◆ひかりの耳鼻咽喉科クリニック

受付時間:月曜日~金曜日 午前8:30~午後5:00迄 TEL0120-018-299 FAX0120-018-599

ご意見、ご要望がございましたら、地域医療連携室までお願いいたします。 E-mail:renkei@kitami.jrc.or.jp